



新年あけましておめでとうございます。皆様お揃いで良い年をお迎えのことと存じ、慶賀にたえません。

今年は日本山岳会にとって記念すべき100周年の年であり、これを成功させるとともに、本会の歴史をさらに輝かしいものにするため、100周年のあとに来る100年、あるいは200年に對し、大きな飛翔台にしたいと思います。このためには、皆様のご協力をお願いし、共通の目標に向か

まず、登山について申し上げます。今までのように周年ごとの

日本山岳会にとつて記念すべき100周年の年であり、これを成功させるとともに、本会の歴史をさらに輝かしいものにするため、100周年のあとに来る100年、あるいは200年に對し、大きな飛翔台にしたいと思います。このためには、皆様のご協力をお願いし、共通の目標に向か

今年は日本山岳会にとって記念すべき100周年の年であり、これを成功させるとともに、本会の歴史をさらに輝かしいものにするため、100周年のあとに来る100年、あるいは200年に對し、大きな飛翔台にしたいと思います。このためには、皆様のご協力をお願いし、共通の目標に向か

新しい年の始めに —100周年を成功させよう

平山 善吉

100周年の記念事業につきましては、会報『山』の100周年ニュースに、その経過について述べ、また、先の年次晩餐会においても申し上げましたので、ここでは簡単にふれてみたいと思います。

大きな登山は企画いたしませんでした。これは、登山界をとりまく環境が大きく変化し、かつてのようにヒマラヤの未踏峰だけが対象であった時代から、最近では、身近な登山、あるいは高齢者登山などが主流となつたからであります。しかし、世界には未知な地域もまだたくさんあります。この未知の地域へ向かうバイオニア的登山に対しても、その規模、形態を問わず、これからも支援していきたく思っております。

このようなかにおいても、100周年のためにいくつかの登山隊を派遣しました。それらは、東海支部の厳冬期ローツエナ壁登山であり、関西支部の西チベットの広い地域を対象とした登山であり、学生部のムスタン山域への登山で



2005年(平成17年)
1月号(No.716)
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部 150円
URL●<http://www.jac.or.jp>
e-mail●jac-room@jac.or.jp

目 次

新しい年の始めに——100周年を成功させよう	1
第7回秩父宮記念山岳賞	3
100周年ニュース	4
海外の山	5
中央分水嶺踏査	6
104歳の渡辺徳逸翁に聞く	8
海外登山基金実績報告	9
報告	10
総務/図書/インターネット	
支部だより	12
東海/京都・関西/宮崎/富山/福岡	
東西南北	16
中国四川省・甘孜藏族自治州	
登山規則/『百年史』は重要だ/パンフ・マウンテン・フェスティバル/チョー・オユーゴールデンジュビリー/俳句・カシュガルにて/短歌・秋山暮色/会員章番号の由来	
Climbing & Medicine	19
図書受入報告・新入会員	20
会務報告	21
INFORMATION	22
ルーム日誌	23

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時

あります。これらの登山隊は、それぞれ困難な山に立ち向かい、あるいはいくつかの未踏の頂に立つなど、すばらしい成果をあげておますが、その概略につきましては、会報『山』に報告されておりますので、ここでは省略いたしまですが、これらの登山は皆若い隊員によって構成され、なかでも学生部の登山は、若者のヒマラヤ登山が消えそうなときに、学生だけで企画、立案、実行したことに対し、特に敬意を表するとともに、このような登山をこれからも大いに奨励、支援したいと思います。

私は、この登山と対局に自然保護をおきたいと思っております。

これに関してはご異論のある方もおられるかと思われますが、現在の活動は各方面から高く評価され、それは青森支部の「ブナ林の再生」であり、東京の「高尾の森づくり」ですが、これに加え、10

0周年記念として東海支部で「猿投の森づくり」が始まりました。これらは、日本山岳会でなければできない事業であり、これからも大事に育てていきたいと思います。

次は文化事業ですが、その目玉は『百年史』だらうと思います。

これは、今日までの埋もれた資料をこの100年を契機に全部掘り起こし、正に「100年の歴史」を目指し、今までほぼ10年の歳月をかけてまとめようとするもので

す。日本山岳会においては、この

ような歴史こそ大切であり、これ

を記録として後世に残すことは、

我々の責務だらうと思つております。また、これに類する出版物と

しては、「英文ジャーナル」、そし

て全支部から原稿をお寄せいただ

きました「新日本山岳誌」等々が

ございます。

文化事業はこのほかには、本会の誇る貴重な図書、絵画を飾る展覧会があり、この絵画のなかには

会員の松崎中正さんから、特に1

00周年のためにご寄贈賜りまし

た、希少中の希少本としての、シ

ュラギントワイトの絵画の一揃

(詳しくは『山』715号参照)な

どもございます。

このほか、いろいろな事業がございますが、特に100周年のためルームを改装し、「談話室」のようなものを作りたいと思っております。これは会員が気軽に立ち寄り、クラブライフを楽しむ場としてご利用いただき、あるいは地方の会員が上京したときお休みいただくななど、皆様の交流、くつろぎの場になることを願っております。

このように100周年の準備は着々と進んでおりますが、最後に記念式典は、全国を8つのブロックに分けて、各ブロック別式典、あるいは行事を行い、これらの総括として10月15日には、東京において総合式典を催したいと思っております。

そして、この100周年のあと、日本山岳会はどうあるべきか、目下この件につきましては、長期ビジョン検討会(委員長・田辺寿会員)を設け、検討中でありますが、委員会からの答申(4ページ参照)を受け、現在これを実行すべく理事会において検討中であります。

そこで、この機会に100周年のあとに来る日本山岳会の第二世紀はどうなるべきかについて、若干私見を述べたいと思います。

今、我が国の登山界をとりまく環境は、登山者の高齢化が進み、かつて私たちが求めた「より高き未踏の頂を目指す」というものから、広く大衆化し、これがその主流となりつつあります。私はこれを多くの人たちの求める登山であるとは思いますが、日本山岳会は「伝統を重んじ」「より困難な頂を求める」人たちと「大衆化登山を目指す人たち」との共存の道を探らなくてはならないと思います。

しかし、このような登山は強要するものではなく、山岳会の生活のなかから醸成されるべきものであり、このためにも元気な、正統的な若者を育て、ここから芽生えた計画に対しても、これを大切にし、本会の持てるノウハウを提供し、協力したいと思っております。このためにも、いわゆる若返りこ

そ急務であり、この若返りは、十分に高齢化と共存できるものと思われます。それは、高齢者の社会経験と、若者の活力が、日本山岳会の伝統という大きな流れのなかで、相補完し、片方にはたよらず、その相乗効果によって、日本山岳会の新しい時代は創られるはずです。

また、このような考え方を生かすのは、組織、すなわち理事会の活性化です。このように私は、組織が活性化されるような改革こそ必要であり、理事会は活発な議論の場にするべきだろうと思います。このためには、いくつか乗り越えなければならぬ困難な問題もありますが、この改革こそ100年だからこそできる改革であり、であります。幸い、若返りと活性化につとめたいと思います。

幸い、本会には多士済々の会員がおられます。今こそ英知を結集し、活力に満ちた、若々しい会を築こうではありませんか。

本年も変わらぬご支援とご協力を願いし、年頭のご挨拶といたします。

第7回秩父宮記念山岳賞 受賞の光栄に浴して

平位 剛



130キロある。ユルト（移動式フェルト製天幕）に住み、全家族と全家畜とともに季節毎移住する、遊牧民族キルギスの圏である。カザンはアフガーン・パミールを北から大、小、パミール・ワハーンの3パミールに分けている（1894年）。現地の人々の考えもほぼそれに準じている。

アフガーン・パミールは、十九世紀末の英露両帝国の権益角逐期に、緩衝圏としてアフガーン領と決定された（1895年）。以後、その地政的背景と厳しい自然環境から、入域は厳しく制限されていなかった。旧ソ連軍の侵攻時にも大パミール周辺への進駐はなかつた（ギルギスの話）。

私の第1回の入域は1999年

夏で、パロギール（東？）峠（標高約3852メートル）を越えてワハーンに入り、サルハッド、オクサス河沿いにカルワン・バラ・シイ（隊商にいたひとりの子供、高仙芝軍の遠征記録の赤仏堂）の積石碑を

経てボザイ・グムバーズ（ボザイ・オクサス母流と支流ボザイ・スーの合流点（標高約3880メートル）までをいう。そこはワハーン族が定住し農業と牧畜を営める東限・最高地（標高約3200メートル）である。そこより東が後者で、小パミ

ールのタジキスタン国境まで約130キロある。ユルト（移動式フェルト製天幕）に住み、全家族と全家畜とともに季節毎移住する、遊牧民族キルギスの圏である。カザンはアフガーン・パミールを北に越え大パミール側に出、ビクトリア湖西端（標高約4999メートル）からパミール河沿いを下行した。

第2回は翌年で、カーン・フーン峠からワハーンに入り、カラ・イ・パンジャを経てパミール河沿いに遡行し、ビクトリア湖東端（標高約4151メートル）に達し、前年と逆に小パミール側に出て、チャクマク・ティン湖東端（標高約3980メートル）より東下するアク・スーの約20キロ東の地を訪ねた。

第3回は2001年でドーラ峠を越え、イシュカシム、カラ・イ・パンジャを経て過去2回の踏査域を詳しく再調査した。第2回と第3回ではキルギスの生活習慣の調査の他、蝶、魚、温泉湯などを採集し、専門家による分類・分析の結果を報告した。2001年にはキルギス族のviticの摂取源を見出した。また少人数ではあるが末梢飽和酸素濃度や血圧を測定した（標高はGPS測定値による）。

創立100年長期目標委員会のご報告

日本山岳会が創立100周年を迎え、新たに第二世紀に向かって、どのような方向に進んでいかなければならないかを検討するために、一昨年「長期目標検討委員会」を設置し、10回にわたって議論を行い、昨年6月9日、理事会宛てに答申をいただいた。メンバーは田辺寿（委員長）、森武昭（副委員長）、中村保、神崎忠男、江本嘉伸、朴元鍾徳、宮崎絢一、大藏喜福、藤本慶光の各委員である。

現在、理事会を中心に検討中であるが、田辺委員長に答申の概略を記していただいた。
（藤本 慶光）

長期目標を検討するにあたり、まず第一に何を目標とすべきかについて考えました。

日本山岳会は1人1人が個人として、会として山登りのパイオニアワークをすすめることが何よりも大切であり、過去・現在・未来を通じて目標であると思います。個人個人の世界のなかでも、世界の登山界のなかでも新しい分野への挑戦的実施がなによりも大切な事とおもいます。したがって長期目標として山岳会館を作るとか、山小屋をいくつ作るとかといった量的目標より、今、会員が会の目指す山登りに対して前向きに進む体制（組織）の再検討・革新がなにより大切な事と思い、会としての全機能が活性化されるよう、次のような提案をしました。

（1）次の100年に向けて会の運営に関する組織改革

1 会の運営全体の活性化のための組織改革：クラブ組織の良い面を残しつつ会員6000人の組織として生き生きと活動できるように意思決定機関としての理事会。諮問機関としての評議委員会、執行機関として各部門の連絡・調整・業務執行を行うための各部門責任者（理事の兼務もあり）による執行部門。

2 理事会の定数を10～12名、評議委員は10名とする。

3 理事の年齢制限をもうけ、原則着任時68歳とする。副会長の1人は40～50歳の若手とする。

4 役員等の選出にあたっては適材・適所の方針を徹底する。会長・副会長の選出は現状どおりとする。会長副会長以外の理事は会長・副会長で候補者を立案し、評議委員会・理事会の議を経て総会の承認を得ることとする。

5 業務量の多さ・多様化を考え、管理部門の責任者に有給の専従者（非理事）をおく。

6 今の私たちの山登りも総論から各論・専門化の時代に入っている。これから会の山登りの方向も専門・特化して事業部門を、先鋭的山登りを実践する「アルパイン・クライミング部門」と趣味として

の登山を中心とした「会員サービス部門」と「自然保護部門」の3部門に分けて構成し、おのの特性を強化すべきと思う。そしてこれら事業部門をスタッフ部門がサポートする。

7 事業部門を充実・サポートするためにJACの顔としての『山岳』および英文ジャーナルの編集と図書・資料を会長直轄として強化する。

（2）会の魅力創りに対する提案として

1 アルパイン・クライミング部門の新設：会の魅力は会の行う山登り、会の持つ仲間の魅力と思う。特に会が未来に向かっての活動を続けるために、若い会員のアルピニズムへの挑戦が大きいエネルギーとなる。そのためにアルパイン・クライミング部門を特化し、その他いろいろな施策とともに優秀なクライマーの集まる環境をつくる。

2 会員交流サロンの設置：会の魅力は会員の交流に拠るところも大きい。会員交流のサロンの整備が必要。

3 図書および資料の見直し整備。

（3）この他に付録としてこの提案に対して検討していただきたい事項として

1 実施にあたってさらに理事会などで検討していただきたい事項

2 さらに時間をかけて検討すべき事項を付記した。

以上「長期目標検討委員会」としての答申をご報告しましたが、なによりも大切なことは会員1人1人がそれぞれの自分のパイオニア・ワークとしての山登りをやり、会の仲間との交流を深め楽しむことだと思います。その目標として何をどれだけやるかということより、その目標を作り楽しむための仕組みにしようという提案となりました。

この問題は私たち会員1人1人の問題です。ご意見があれば理事会宛てお寄せください。（田辺 寿）

海外の山

2005年1月の風景

江本 嘉伸

2005年は、年末にインド洋周辺各国を襲った「tsunami」の深刻な被害の確認と支援で始まった。死者推定15万人。「20万人以上」との情報も流れ、1月6日ジャカルタで開かれた支援国緊急首脳会議に出席したアナン事務総長が「国連60年の歴史で最大の惨事」と表現したほど驚くべき被害だった。

【Everest News.com】は、「tsunami」の直後に現場に駆けつけたトレッカ

ーの現場報告と救援カンパの送り先についてのメールを掲載し、支援を呼びかけた(1月4日)。トレッカーはかつてエヴェレスト、アマ・ダラゴン方面へトレッキングを楽しんだことのあるアメリカ人でインドの漁村の学校で教えていた。

「tsunami」のことは気にしつつも、山の世界は活動を開始した。

『アメリカン・アルパイン・ジャーナル(AAJ)』の編集者、ジョン・ハーリンは、1月6日、世界各

国の山岳団体、登山家などに新年の挨拶とともに、新ルートを登攀した登山家の情報を教えてほしい、とメールで呼びかけた。

ハーリンによると、AAJはこれまでヨーロッパ・アルプス、スコットランド、ニュージーランドの山をのぞく、世界のすべての山々を対象に記録を掲載してきたが、今後はこれらを含めた全てのエリニアでの登山活動を記録するという。

2004年12月末日の締め切りを「1月いっぱい」まで伸ばし、価値ある登攀記録を集めたいとの意欲的な申し出だ。

「あなた自身でなくとも、優れたクライミング記録をなしあげた人の情報をおひ教えてください」との依頼に冷たくする理由はまったくない。

英國山岳会(The Alpine Club)は、

2005年が世界第3位の高峰、カシエンジュンガの初登頂50周年にあたることを記念してセレモニーが行なわれると伝えていた。チャールズ・エヴァンスを隊長とする英國隊は1955年5月25、26日カンチエンジュンガ初登頂を果たした。最初に頂上に立ったのは、ジョージ・バーン、ジョン・ブラウンの2人。

2005年はジャン・フランコを隊長とする、アルプスの“猛者”で

固めたフランス隊がマカルーを初登頂してから半世紀の年でもある。1955年5月15日、ジャン・クジーリオネル・テレイの2人が北西稜から登頂したのに続き、隊長のフランコ以下登攀隊員8人とサーサー全員が頂に立つという堂々たる初登頂だつた。

ネパール登山協会では、2つの8千峰の「初登頂半世紀」を記念して5月にセレモニーをやることを発表、ウェブサイトで招待者リストへのエントリーを呼びかけている。5月15日にマカルー、25日にカンチエンジュンガの、それぞれのお祭りをカトマンズで催すという。招待の対象となるのは登頂者で、「登頂証明書」をファックスで、送るのだそうだ。

ロシア山岳連盟は、少し変わったお祝いをやる。

1982年のエヴェレスト・ソ連ルートからの登頂と、北壁のほぼど真ん中にルートを切り開いた2004年のロシア・ルート開拓を祝う「大祝賀会」が2月18日、モスクワで開かれることを告知したのだ。82年エヴェレスト南西壁・ソ連ルートの完登は、当時ヒマラヤニストを驚かせる仕事だった。昨年の「北壁ダイレクト」とあわせて2つのロシ

ア人の“偉業”を称えよう、という前号の後記で編集長が書いてくれているように、筆者によるこのコラム「海外の山」は、今回でちょうど20年を迎えた。1985年2月(476)号「韓国の登山界」が最初で、以後ほぼ毎月欠かさず、よく書かせてもらつたものである。しかし、ひとりの書き手があまりにも長く続けるのはどうかと考え、いつたん返上を申し出た。長年続けていた仕事への愛着はあるが、会報のリフレッシュは不可欠だ。ご愛読を感謝したい。

氣分はなんとなくわかる。

「Tsunami」が始まった2005年。

テレビには時間を追つて、逃げまど

う人たち、車や家とともに流され、ゆく人たちの新たな映像が流され、この災害の残酷さを思い知らせてく

れる。45年前の「チリ津波」の時、海がいつたんみごとなほど引いてしまったことを、日本のおとなたちは知っているが、他国の海辺の人々にそんなことは伝わっておらず、人命はゴミのように流された。

他に災害が多かつたせいか、日本全体としては“さめた”対応だった。

情報発信を含め、山を軸とする人も、宇宙や地球全体を考えながら行動す

ることが要求される時代に入ったのだ、と思う。

山や浅間山の噴煙が見えた。大ヤリには16時20分着。陽のあるうちに角間峠に着けないことが確実となり、角間山の肩からは、登山道を通って下ることにした。17時40分、ようやく藪を抜け肩に出た。空には半月が昇っていた。角間峠18時20分着。メンバー4名に、強力な助っ人3名。ケガもなく、踏査できた。肩から角間峠の藪と、地蔵峠～湯の丸山～角間峠も翌24日、快晴の北アルプスの眺望を楽しみつつ、踏査を終了した。小ヤリからは鹿沢温泉にいたメンバーと携帯が通じたこと、貸し切りバスで送迎が滞らなかったことも幸いだった。(鈴木 裕代)

科学委員会

田代・帝釈、踏査顛末?!

科学委員会の担当区間は南会津の馬坂峠より安が森峠。「馬坂峠より田代山峠」を1区、「田代山峠より安が森峠」を2区に分けて踏査することとし、1区は公募参加者と10月に、2区は11月の偵察山行のうえ来年の残雪期に本踏査の予定である。今回は1区について報告する。

10月16日、委員10名、公募参加者9名が南会津の松枝岐へ向かう。昼食後「武田久吉メモリアルホール」を見学した。武田氏は日本山岳会6代目の会長であり、理学博士として植物学の教育啓蒙に尽力され、さらに今日の尾瀬を守った偉大な先輩である。また当会のシンボルマークは同氏のデザインである。

2日目、8時20分に馬坂峠より、登山路班と分水嶺を忠実に辿る藪こぎ班に分かれ踏査開始。根籠地帯を過ぎるとオサバグサの群生地があった。三角点の帝釈山(2061m)で360度の展望。間近に会津駒ヶ岳、尾瀬の燧岳、さらに遠くの山々。登山路は分水嶺の細尾根を下り、その後は大きく離れることなく併行する。しかし藪こぎ班は予想以上に時間を要す。11時過ぎ田代山の弘法太子堂に着く。田代湿原は北側に緩く傾斜しており、分水嶺は南縁を通るが、木道工事中のため滯水帯への踏み込み不能で望見するに止める。予定タイムをオーバーしたため、田代山峠までの計画を断念し猿倉登山口へ下山。同日、別動隊の近藤委員が田代山峠より田代山までの分水嶺を藪こぎで踏査した。

- (1) 分水嶺は忠実に県境であり、古地図の藩境と一致する。明快に水利権を巡る線引きである。
 - (2) 分水嶺の南側は断崖が多いため、登山路はすべて傾斜の緩い北側(日本海側)を通る。
 - (3) 分水嶺を境にした植生の相違は見られず、どちらも日本海型樹林である。
- (向野暢彦)



田代湿原を通る分水嶺

つくも会

締めくくりは温泉で

つくも会に割り当てられたのは、上越国境の三国峠から稻包山、白砂山を越えて野反湖まで。稻包山から白砂山までの区間は登山道がなく、しかも熊が出没するような噂も耳にした。①与えられたコースを切れ目なくつなぐこと、②できるだけ多くの会員が参加すること、を念頭に検討を進めたが、難易度の高い区間が含まれていたため、会員の技量・力量を考慮し、3つのステップに分けて実施した。

ステップ1の偵察山行は2004年の3月上旬につくも会代表の徳永、分水嶺担当の芦澤ほか会員2名のパーティーで実施。雪庇や強風を伴った吹雪に行く手を拒まれ、三国峠からキワノ平ノ頭手前までの往復に留まった。

ステップ2は同年5月の連休に分水嶺担当の芦澤が実施。残雪期の単独行に加え野反湖から三坂峠と最も困難な区間の踏査となるため、無線機、GPS、発炎筒、熊避けスプレーなども携行し万全を期した。脆くなった雪庇、背丈を覆うほどの藪こぎに悩まされたが、幸い天候には恵まれ予定通り2泊3日(テント泊)で無事に踏査を終えることができた。

ステップ3は同年9月下旬の連休に実施した。残された三国峠から三坂峠の踏査には一般公募の仲間1名を含む総勢16名が参加。三国トンネルの新潟側坑口脇の登山口から取り付き、一路三坂峠を目指した。長倉山から先、見通しの良い国境の稜線上を歩くこと約5時間、三坂峠に到着し三国峠から野反湖までの踏査が完結した。下山後、宿泊先の猿ヶ京温泉で踏査完結を祝い盛り上がった。(柴山信夫)



中央分水嶺踏査



総延長：5000km

踏査率：37.9% (2004.12.31現在)

緑爽会

踏査中、思わぬ収穫も

旧自然保護委員会のOB、OGで作られた緑爽会は、碓氷峠～矢ヶ崎山～八風山～物見山～内山峠の踏査を申請し承認された。全コースを碓氷峠～矢ヶ崎山～和美峠、和美峠～八風山、八風山～物見山～内山峠の3区に分けて歩いた。

最初のコースは矢ヶ崎山からの下りが岩尾根で回り込む箇所があったほかは、群馬県と長野県の県境尾根歩き。群馬県側がすっぽりと切れ落ちているのに改めて驚かされた。

和美峠から八風山は5月中旬、小雨の降るなかを歩いた。相変わらずの県境尾根歩きだが季節がら、山椒の木の芽を少し収穫できる嬉しさもあった。この区間は尾根がなだらかで広いため、方向を間違えやすい箇所があり、また日暮山分岐の少し手前からは別荘地の際を長く歩くので、あまり楽しいコースではなかった。特に八風山から物見山に向かって南北に伸びる尾根に合流する箇所は、小沢の中を登る歩きにくい道であった。天気が悪かったこともあり、八風山に登って2回目の踏査は、予定より短い区間で終わりとした。

最後の八風山～内山峠の区間は、大半が道の良い部分なので、会員に呼びかけての踏査にした。幸い天気の良い日だったが、八風山分岐から矢川峠に向かう箇所と、物見岩南面の車道から南に下る箇所が急で岩っぽいので、安全を考えて少しづれた道を歩いた。矢川峠の4等三角点石がわかりにくいう所にあって、少し探した。内山牧場に寄って飲んだ牛乳はうまかった。物見岩から見た荒船山の全容は大きく立派で印象的だった。

(横山 隆)

山げら

悪戦苦闘の9時間

山げらの会は、「鳥居峠～地蔵峠」を担当した。当初、登山道があると思って選んだ区間だったが、「鳥居峠から角間峠の間は藪」との情報が入ったので5月29日、メンバー5名で下見に行った。1時間少々熊笹の藪と格闘したものの、天気予報が雨だったので、鳥居峠に戻った。

10月23日は、9時25分に鳥居峠出発、途中、棒の上に白い板が載っているものを見たが、下見の時に少し先に三角点の標石を見つけていたので、通り過ぎた。後日、地図に当ると、標石はあるべき位置28分56秒より10秒ずれた46秒であったことが判明、あの白い板のところが、観測すべき箇所だったようだ。

藪に入ってすぐのあたりには、県境の盛り土が続いている。群馬・長野両県が県境に盛り土をしたもので、浅間山の辺りまで見られるらしい。12時20分、大塚山着。この調子なら悪戦苦闘4時頃には角間峠に着けそうだと前進を決定。笹藪のなかをもがきながら、小ヤリ着14時30分。狭い頂上であった。四阿



角間峠付近から見た分水嶺、正面が四阿山、右は角間山

104歳の渡辺徳逸翁に聞く

奈良 千佐子

富士とともに一世紀

裾野市の人々から「山の先生」「富士山の生き字引」と慕われてゐる渡辺徳逸氏を訪ねた。富士山研究の第一人者、須山地区深井戸生まれ、104歳(会員番号1784)。日本山岳会会員の最高齢であり、草創期を知る生証人であろう。

小島烏水の推薦で入会しているが、戦後の混乱で会員の資格を失い、2000年復活会員となる。戦前から富士山の自然破壊に目を向け、里山の自然を守り伝えることの重要性を説き、一世紀近くも情熱を注いできた。

ふるさとの富士と古道

15歳で東京の大学に進学し、イギリス人客員教授ウイリアム・ヘーゲルと出会い。山に興味を持つのもこの出会いがきっかけである。日本の山々を歩いて辿り着いたのは、ふるさとの富士。その美と厳、歴史と文化に向き合う。富士の歴史を紐解いた時、ふるさと

に古道須山口があつた。この登山道は、平安時代から鎌倉時代にかけ最も栄えていたが、1707年(宝永4年)の噴火で廃道になる。70年後に復活するが、御殿場駅の開設や東富士演習場の登場で衰退、再び廃道となる。

33歳の時、登山道復興を決意、画策、力を注ぐ。日本武尊の神話や聖徳太子との係りを持つ古道須山口の歴史を絶やすぬようなど、古文書などの資料収集を行う。小島烏水、国府犀東の指導や助力もあつた。復興への道は一進一退であつたが、徳逸はひたすら世に訴え続けた。

そんな徳逸を「山の先生」と慕い、ともにコツコツと学んできた地元の有志が立ちあがつた。歴史とロマンに溢れた緑の回廊を復活したいという思いは、受け継がれていく古道須山口登山道の良さを紹介している。小島烏水から贈られたというその本のページをめくると、「笠雲の富士」の項に徳逸自らの丁寧なチェックがあつた。ほかの人には決して知り得ないであろう、富士の雲、地名、距離、数字などへの詳細なチェック……まさに「富士山の生き字引」であ

古道須山口 復興の夢かなう

33歳の時、登山道復興を決意、画策、力を注ぐ。日本武尊の神話や聖徳太子との係りを持つ古道須山口の歴史を絶やすぬようなど、古文書などの資料収集を行う。小島烏水、国府犀東の指導や助力もあつた。復興への道は一進一退であつたが、徳逸はひたすら世に訴え続けた。

日本山岳会創立者のひとりで初代会長の小島烏水は、日本アルブス第2巻の「笠雲の富士」に、廃れていく古道須山口登山道の良さを紹介している。小島烏水から贈られたというその本のページをめくると、「笠雲の富士」の項に徳逸自らの丁寧なチェックがあつた。ほかの人には決して知り得ないであろう、富士の雲、地名、距離、



最高寿104歳の語り(右は国府犀東の書) 撮影: 齋藤知茂

富士を巡る交友と成就の喜び

今西錦司、国府犀東、徳富蘇峰、藤木九三、佐々木信綱、川田順、水原秋桜子、岡田紅葉など、富士を巡る交友は広い。とともに山を語り、ふるさとの将来や、登山道復興について夢を語っていた。

「私の最大の喜びは、登山と富士山研究によって知りえた多くの文人墨客の指導を受け、水資源の確保と、古道須山口の復興が実現できることです。恩返しができました」と結ぶその頬はピンク色に染まつた。

(敬称略)

【11月24日に行われた、資料・映像委員会の訪問取材報告、現在資料作成中】

冠松次郎は岳友

黒部渓谷を世に紹介した冠松次郎は、徳逸を「須山の友」と呼び、戦前戦後を通じ岳友として富士山や愛鷹山等を歩いている。100余通にも及ぶ手紙から、親交の深さと時代背景を感じる。十五夜の紙には「貴山荘へ伺い 黒岳の上あたりで 月をむかえたいと存じますが如何でしょう」とあり、あわせてバスの時間を問い合わせている。

冠松次郎は、徳逸を「須山の友」と呼び、戦前戦後を通じ岳友として富士山や愛鷹山等を歩いている。100余通にも及ぶ手紙から、親交の深さと時代背景を感じる。十五夜の紙には「貴山荘へ伺い 黒岳の上あたりで 月をむかえたいと存じますが如何でしょう」とあり、あわせてバスの時間を問い合わせている。

冠松次郎は、徳逸を「須山の友」と呼び、戦前戦後を通じ岳友として富士山や愛鷹山等を歩いている。100余通にも及ぶ手紙から、親交の深さと時代背景を感じる。十五夜の紙には「貴山荘へ伺い 黒岳の上あたりで 月をむかえたいと存じますが如何でしょう」とあり、あわせてバスの時間を問い合わせている。

平成15年度「海外登山基金助成登山」実績報告

海外登山基金委員会担当理事 大蔵 喜福

第15回、本年の海外登山基金助成登山は、多くの隊に支援する方針で7隊に助成。その結果を報告します。

1. 鰐鰐同人インドヒマラヤ登山隊2004

隊長・馬目弘仁、隊員2+2名

メルー峰北東壁未登ルート挑戦・シプリン北壁シェコルート挑戦・35万円

●メルー峰北東壁シャークスフィン約6000mまで。隊員が墜落、左足首の靭帯を損傷し歩行不能となり9月28日退却。●シプリン北壁は9月中旬からの記録的な大雪により断念。その後チームを再編成、メルー峰北東壁最右翼ルンゼルートをアルパイン・スタイルでトライするも約5700mの氷瀑を登攀中、落氷が隊員の顔面を直撃、出血がおびただしくすぐに下降、断念。

2. ネパールヒマラヤ広島・登山隊2004

隊長・名越實、隊員1名

テンカンポチエ峰・北東ピラー初登攀に挑戦・35万円

●計画中止、助成金返納。7月15日、隊長がトレーニング中に墜落し、あばら骨複雑骨折で断念。

3. 日本山岳会テンギ・ラギ・タウ登山隊2004

隊長・中原良材、隊員5名

テンギ・ラギ・タウ(6943m)未踏ルートより登頂・30万円

●北稜当初のルートは連日の強風下、腰までのラッ

セルを強いられて放棄。改めて雪氷壁の中央突破を狙うが、6250m地点からの岩状スラブに阻まれ5月8日をもって終了、敗退。

4. 日本山岳会関西支部西チベット学術登山隊2004

総隊長・阿部和行、隊長・大西保、登山隊6名、学術隊4名

未踏峰パチュンハム(6529m)北壁・チャンチュンギャンゾンカン(6080m)北壁登攀および西チベット河口慧海足跡の調査 30万円

●パチュンハム北壁を9月3日に全員初登頂。ギャンゾンカン北壁を9月18日に初登攀。および、アッパードルボの峠からチャンタンへと入域した慧海全足跡を巡る調査を終了。簡易報告書A4判5頁、11月理事会で報告、晚餐会報告。

5. 日本山岳会学生部ムスタン遠征2004

隊長・和田岳史、隊員4名

チブヒマール峰(6650m)・サリブン(6328m)未踏峰への挑戦・10万円

●9月15日にチブヒマールとサリブンのコルにC2を設営し、18日に隊長以下4人がチブヒマールに初登頂。19日も全員でサリブンの第2登に成功。11月理事会で報告、『山』報告(714号)、報告会11月11日(学習院にて)、晚餐会報告、報告書A4判138頁。

6. ゴールデンピーク・エクスペディション2004

隊長・平出和也、隊員1+1名

ゴールデンピーク(スパンティーク7027m)新ルートからの登頂とスキー滑降・10万円

●7月9日、隊長と隊員の2名がゴールデンピーク北西稜登攀に成功。スキー滑降は天候不順のため中止。

7. どさんこ同人K2登山隊2004

隊長・松本政英、隊員4名

K2(8611m)南南東リブからの登頂・10万円

●8月16日に隊長と2隊員が南南東リブから登頂。隊はシェルパやフンザ高所ポーターを使わず、一部のフィックス工作をスペイン隊(失敗)と協力したものの、荷揚げと頂上攻撃を自力でなし遂げる。

世界の山旅

35周年記念

「一人では行けない、でも、行きたい。
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーサービス株式会社

35th Anniversary

国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ポンド銀證会員

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

報告

1月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

総務委員会

新入会員オリエンテーション開催

10月16日(土)、東京・市ヶ谷のルームにて、新入会員オリエンテーションを開催した。昨年秋の約130名(会員番号13921~14053)が対象である。

平山会長の歓迎の挨拶に始まり、会の歴史や施設利用時の注意事項の説明、委員会、同好会の紹介と進行し、自己紹介にうつるころには出席者間に打ち解けた雰囲気が感じられた。これをきっかけにクラブライフを十分にエンジョイされることを期待したい。

(遠藤 源太)

晴れて4月に入会、私の会員番号は13959番。

新会員の皆さんのお自己紹介を聞いてみると、すでに「高尾の森づくり」や「富士山歴史の道を守る会」等の活動をされている方、古いピッケルを収集している方等が入会されている。登山や自然保護活動の経験豊富な方が多いのに驚いた。

来年の日本山岳会100周年に向けて、分水嶺を歩く、ヒマラヤトレッキング、森づくり等多様な行事が行われている。

私も会費を払うだけの会員ではなく、積極的に活動に参加していきたい。そして、ただ山に登るだけではなく、「山に登ることを中心、登山に関する学術、文化、芸術を幅広く語り、知的クラブ」を楽しむことにわずかでも想を記していただいた。

図書委員会

第36回山岳図書を語る夕べ 『岳人』誌半世紀の軌跡

講師・永田秀樹氏

(『岳人』第10代編集長)

田村理事の講師紹介で始まった。永田氏は山梨県甲府市出身。甲府一高で登山を始め、学習院大学山岳部時代は、カラコルムなどのエイフを楽しむ」ことにわずかでも

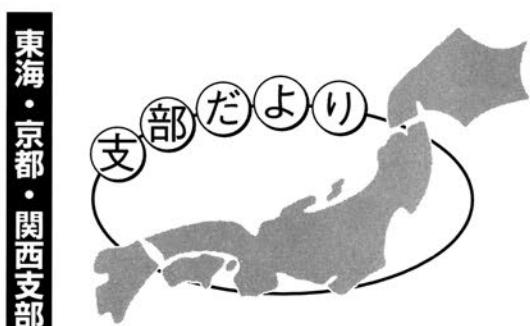


東京・市ヶ谷のルームの前で

クスペディションに参画。その間、大先輩の今井友之介氏、加藤泰安氏らの薰陶を受けた。その後も海外登山を豊富に経験し、山を知る編集者として1979年に中日新聞に入社以来『岳人』の編集に携わり、96年から03年、編集長を務めた。600号では皇太子殿下の『花の山隨想』で(同時に不破哲三氏も特集)、山岳雑誌としては空前の販売部数を記録するなどのエピソードをまじえながら『岳人』の誕生と成長、周辺の状況を語っていた。

『岳人』は1947(昭和22)年5月、伊藤洋平氏(後に京大医学部長、ガン・ウィルスの権威)によつて京都で創刊(A5判・仙花紙32^ジ・8円)された。編集方針は「純粹な山岳雑誌として、岳界復興の捨て石として、正統派登山」を追求。今西錦司らによるヒマラヤ登山論や第一級の記録を紹介。その一方で、新制高校山岳部の育成に力を注いだ。

1949年、中日新聞が発行元になり、朋文堂の『山小屋』などの編集長を務めた高須茂氏が編集同人として参画。高須氏は「アルペニズムとはなしに、登山の本質



全国各地の支部から、独自の活動状況を
リポートします。

生態、そしてそれは日本文化の動力源であった」と題して、名古屋大学名誉教授・只木良也博士（東海支部の「猿投の森」の森づくりについてご指導いただいている）の講義である。

氏の著作である『ことわざの生態学』（丸善ブックス）の中の「あとは野となれ山となれ」の話から始まつた。この本の宣伝かと思いきやこれが実は日本の気候と植生を表すキーワードなのだ。全国平均年間雨量1700ミリ+αという雨の多いわが国は、ほっておいてもやがて草原（野）になり森（山）になる。乾燥の国では「やがて砂漠でそれつきり」ということわざがあるとかないとか。

続いて「照葉樹林」命名の由来、分布域、生態系としての特徴について、暖かさの指数および寒さの指數の解説を交えながら明快に解説された後、邪馬台國の昔から現代までの照葉樹林の変遷を辿りながら、「照葉樹林は日本文化の石油であった」と結論付けられた。

最後に、肥料源・燃料源としての収奪がなくなり照葉樹林が復活しつつあるが、明るく闊達な落葉樹林に比べて、薄暗く、じめじめ

東海、京都、関西3支部自然保護委員会共催の森の勉強会が11月27日（土）、28日（日）に、49名の参加者を得て、伊勢神宮（正式名称は単に「神宮」）の宮域林をフィールドに行われた。この森の勉強会は、別表に示すように1999年以降、毎年行われ、今回は7回目を迎える。山の自然と森林植生を中心とした本格的な勉強会で、正しい自然保護の基礎知識を得るために行っているものである。初日は座学、2日目は野外実習を実施した。

座学の最初は「照葉樹林」その

した照葉樹林は本当に好まれるのか、社会の期待と現実との乖離はないのか、という問題提起をされ、いくつかの提案を述べ締めくくられた。

座学の2番目は、前・神官司

庁営林部長木村政生博士の「神宮の森」歴史と現在」についてである。

宮城林は神域、第1第2宮城林に分けられ合計約5700haである。

宮城林は神域、第1第2宮城林に分けられ合計約5700haである。宮城林は神域、第1第2宮城林に分けられ合計約5700haである。

宮城林は神域、第1第2宮城林に分けられ合計約5700haである。

森の勉強会（京都・関西・東海3支部共催）小史

回	場所 (FS、座学)	日 程	参加者	主任講師	森林気候帯
	準備会	1999.3.19			橋村・猿山、秋野会員、滋賀県朽木村朝日の森を訪ね 森林環境研究所長海老沢秀夫氏と勉強会の骨子を作る
I	FS：芦生の森 座学：朝日の森	1999/6/18~20	32	海老沢秀夫	冷温帶(45<WI≤85) 暖温帶(85<WI≤180)
II	FS：芦生の森 座学：朝日の森	2000/5/19~21	59	海老沢秀夫	同上
III	FS：芦生の森 座学：朝日の森	2001/10/26~28	38	金子有子	同上
IV	FS：芦生の森 座学：美山町河鹿莊	2002/5/10~12	26	海老沢秀夫	同上
V	FS：愛知県民の森 座学：山びこの丘	2003/6/14~15	40	海老沢秀夫	暖温帶(85<WI≤180) 中間温帶(85<WI≤180,-15<CI≤-10)
VI	FS：白山砂防新道/千振尾根 座学：中宮展示場/市ノ瀬	2004/8/7~9	23	上馬康生 古池 博	冷温帶(45<WI≤85) 亜寒帶(15<WI≤45) 寒帶(0<WI≤15)
VII	FS：伊勢神宮・宮城林 座学：神宮会館	2004/11/27~28	49	只木良也	暖温帶(85<WI≤180)

FS : フィールドスタディ(野外学習)

WI : ウォームスインデックス(暖かさの指数)

CI : コールドネスインデックス(寒さの指数)



ウバメガシ、ヤマモモなどの大木の中で野外実習

伐採し尽くされ、その後宮川流域をさかのぼって採取し、次いで尾張藩の木曾林に移行したこと、また宮域林は全国から參集するお伊勢参りの人達の燃料として伐採され、明治期には禿げ山となつた。

その後は、この状況を改善すべく大正12年に決議された「五十鈴川の水源涵養、宮域の風致増進を図りつつ、造営用材林育成のため、ヒノキを主林木とした針広混交林を仕立てる」という基本方針を変えることなく、遷宮林材自給を目指し現在まで営林を続けていますと、等々、直接営林に携わつて来られた木村博士ならではの話であつた。

20年ごとの遷宮が、建築技術の伝承に有効であることはよく知られているが、その材木を供給するための宮域林を作り上げることが、結果的に水源の涵養および風致増進にも大いに役立ってきたことを聴き、先人の知恵に感服し、また、針広混交林に仕立てたことがすでに大正期に主張されていたことを知り、神宮の森林経営計画に対する認識を新たにした。

座学の最後は東海支部自然保護委員で、森林インストラクターである川合寿之氏による「照葉樹林を見るポイント」の講義である。氏は並の森林インストラクターを教育することもある樹木博士で、写真を示しながら、一般の図鑑などには書いてない個々の樹木の見方のノウハウを伝授してくれた。翌2日目は野外実習である。フィールドは五十鈴川の上流(神路川)と島路川に挟まれた宮域林で、一部の林道を除いて登山道はない。立ち入り禁止地域のため特別に許可を得て入山した。当日は野外実習に専念すべく、事前に3回にわたり調査を行い、ルートの選定と標識(終了後完全撤去)の設置を実施した。

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデューをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。

あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問い合わせ
お申込みは **アルプスウェイ**
<http://www.fellow-travel.co.jp/>

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F
Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300
e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp
〒530-0002 大阪府大阪市北区曾根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F
Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986
e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催:株式会社 フエロートラベル

ボンド保証会員
(株)日本旅行保証会員

国土交通大臣登録旅行業664号 協賛:ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局 後援:スイス政府観光局



A B C D 4班に分かれ、A B班は時計まわり、C D班は逆にまわる。各班にはそれぞれ前記の木村博士、川合氏および他2名のインストラクターが付く。低木層にはサカキ、ヒサカキ、イズセンリヨウなど、高木層には、カシ、シイ、シロダモ、ヤマモモ、カラスザンショウ、ヒメシャラなど随所に見られ、特に意図的に残されているクスの大木と、他所では滅多に見られない巨大なウバメガシが目を引いた。

植林されたヒノキと広葉樹の混じる森を見ながら、木村博士がさ

れた「広葉樹は植える必要はありません。その場所に最も適したもののが自然に生えています。ヒノキの広葉樹はうまく育ちます。このことにより生態的にもバランスのとれた豊かな森ができる上昇の「スケーリング」いう解説は極めて説得力のあるものだった。

なお、実施後のアンケートによると、ほとんど全員が満足しており、再開催の希望者も多いので2005年11月にも、今回とほぼ同じ内容で再び実施することにしている。

(猿山 昌夫)

宮崎支部

第20回宮崎 ウエストン祭の開催

□交流深まる前夜祭

毎年11月3日は、日本山岳会宮崎支部にとつては特別の日である。

1985(昭和60)年7月、宮崎支部を創立し、同年11月高千穂町

の協力を得て第1回宮崎ウエストン祭が開催されて今年で20回の節目を迎えた。

11月2日6時、薄曇りの穏やかな朝靄のなかをマイクロバス2台

他(参加者41名)で宮崎を出発、県北・日乃影町の矢筈岳(666メートル)を目指した。10時に矢筈岳の登山口に到着、標高は低いが、急峻なふたつの岩峰が東西に屹立した山容をしている。これらの山々はロック・クライミングの場所として全国的に有名な岩場があり、週末にはロック・クライマーでにぎわう場所である。期待していた紅葉は北面に僅かにあるだけで残念であったが、山頂からの眺めは素晴らしく、山水画のような周囲の山々を見ながらの昼食は格別であった。

夜は、三秀台の麓・五ヶ所野菜

集荷所とその広場で恒例の前夜祭が盛大に行われた。神事の後、高千穂町長、宮崎支部長ら代表が玉串を奉奠して登山の安全を祈願し、地元五ヶ所・田原両小学校児童や大人の神樂が奉納され、児童の合唱や青年らによる太鼓の披露があつた。

また、前夜祭終了後、宿舎の五ヶ所公民館で北九州支部20名との交流会を開催し、大いに盛り上がりを見せた。

□節目の宮崎ウエストン祭

11月3日、夜来の雨が少し残り肌寒く、天気が心配された。8時にはウエストン碑前で祭典の準備をしながら天気回復を待つた。

思えば、ここ数年のウエストン祭は天候に恵まれなかつた。38年前の昭和41年、この景勝の地にウエストン顕彰碑を建立するため、

第20回の宮崎ウエストン祭が開催された。五ヶ所小学校児童代表の点鐘、献花のあと、高千穂町長、宮崎支部長等の挨拶に続いて、大谷前支部長が創作された『ウエ斯顿氏に捧ぐ鎮魂と新たなる誓い』の詩を参加者全員で朗誦し、エーデルワイスの歌を全員で合唱。

藤平さんが若かりし頃から多くの足跡を残し、愛して止まなかつた剣岳。その剣岳がよく見える中山(1255メートル)が1周忌の追悼車場は車であふれていた。

藤平さんが若かりし頃から多くの足跡を残し、愛して止まなかつた剣岳。その剣岳がよく見える中山(1255メートル)が1周忌の追悼登山の舞台に選ばれた。

予定の9時には20名あまりの支部会員等が集まり、立山川を渡る橋のたもとの慰靈碑の横から登り始める。落ち葉にはうつす霜が降り、今朝の冷え込みがしのばれる(昨年のこの日もすばらしい天氣で、私は職場の県外旅行の帰り

秀台に立ち祖母山を見上げたとき、今年8月10日鬼籍に入られた。三部6名で10時20分スタート。カヤ、スズタケのブッシュを10分間、そ

すぐそばに大谷前支部長の声が聞こえたような気がしたのは私だけではなかつたのかもしれない。

9時、約160名の参加を得て、



五ヶ所小学校代表児童による献花

富山支部

藤平元会長の 1周忌追悼登山

元日本山岳会会長で富山県山岳連盟の前会長だった藤平正夫氏が

急逝してはや1年がたつた。命日の11月23日は、めつたにないような快晴で、中山の登山口にある駐車場は車であふれていた。

の後は山頂までの尾根コースを1時間、周囲を展望すると里山では、家畜の餌にする刈り干しが盛んで、草を刈り取った跡や干し草を摘んだ小積みが幾何学的な模様を作り、高千穂ならではの晚秋の風景を醸し出していた。(別府正保)

に、携帯電話で藤平さんの死を知らされ驚いた)。

剣岳の展望台として近年ハイカーに入気の中山。スローペースで手入れの行き届いた登山道を登る。樹齢千年ともいわれるタテヤマスギの巨木が並ぶ五本杉の平では、北陸銀行時代の藤平さんの話になつた。20分たらずで中山山頂。そこには先に到着した大勢の登山者がグループごとに憩い、腰を下ろす場所もないくらい。剣岳頂上からのびる早月尾根、小窓尾根、剣尾根の雪がまぶしく光っている。

木戸支部長の発声で全員で黙祷し、藤平雍子夫人から差し入れされた

下山後は、新築されたばかりの馬場島荘の食堂に入り、また話に花が咲いた。藤平さんと2人で長大なチベットの旅をした太田会員や、チベットからネパールへバスで越えた近藤会員らの思い出話を耳を傾けながら、いずれラサの地を訪れたいとの思いを強くしたのは私だけだつたろうか。

(山田 信明)

福岡支部

新支部長、中山健氏紹介



海外登山経験豊富な中山氏

平成16年度通常総会(5月16日)にて役員改選が行われ、新しく福岡支部長に中山健氏が選任された。中山氏は1988年に日本山岳会に入会し、以降、深田前支部長の時代には副支部長として支部運営にたずさわってこられた。

近年の福岡支部主催の海外山行には精力的に参加されている。

(渡部 秀樹)

今後は両氏を支えてこられた中山新支部長が引継ぎ、福岡支部らしい活動がさらに活発になること期待される。また、同時に会員高齢化の問題や、会員の参加やすい地域に根ざした活動の促進なども課題として、新副支部長の副島勝人氏と一緒に三脚で取組んでいただけるものと思つてている。

ドイツワインで献杯した。

1998年の雲南省横断山脉の旅、

1998年チベット・ナムナニ登山隊、さらに2001年の東チベット・カンリ・ガルポ山群調査では第1次隊(松本征夫隊長)から2004年の第4次調査隊まで、4年間連続して参加し、情熱を傾けてこられた。第3次カンリ・ガルポ調査隊では副隊長としてヒヨン峰に登頂、第4次隊では同じく副隊長として米堆谷偵察班などの任務を遂行された。

福岡支部はそれぞれ別の山岳会にも所属する会員が多く、元来支部活動はサロン的な風潮が強いが、松本支部長、深田支部長の時代から両氏の尽力により、支部主催の海外山行も盛んになり、特にカンリ・ガルポ山群の調査においては対外的にも評価されてきた。

学生部 ムスタン遠征 報告書

好評発売中!



購入希望者はハガキかFAXで事務局までご連絡ください。
振込用紙を同封して送ります。
(定価 2000円、送料 290円)

ネバール		◆プライベートボーター同行!
◆低酸素室で高山病対策!		
アンナフルナ・ダウラキリ大展望ショムソン街道トレッキング		
3/9(水)~21(日)	368,000円	(12日間)
ロッジ泊で歩くヒマラヤ大展望フーンヒル(3194m)トレッキング		
3/15(火)~23(水)	298,000円	(9日間)
らくらくロッジ泊で歩くタンボチ・エペレスト展望トレック		
3/23(水)~4/3(日)	368,000円	(12日間)
ロッジ泊で歩く世界で最も美しい谷ランタン谷ヘリトレッキング		
3/26(土)~4/3(日)	368,000円	(9日間)
山旅専門旅行社 アミユーストラベル株式会社		
〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4K N新宿ビル11階		
TEL:03(5919)1188 FAX:03(5919)1189		

貢嘎雪山三山、チヨーラ山、ゲニ山塊、ヤンモーロン山塊など四川省内の6千^{トク}峰を擁する山群の大部分が存在する。これらの山の登山許可の付与と管理は甘孜藏族自治州が主体的に行うというのが、

中国四川省·甘孜藏族自治州登山規則

中村
保

孜藏族自治州の甘孜登山協会(Gan-zi Mountaineering Association)を中村が訪問し、秘書長と面談、新しく施行される（2004年12月1日発効）する同州の登山規則の説明を受けた。

施行法の詳細は山岳会事務局におくので、関心のある方は事務局へ連絡してください。
(なお、四姑娘山はアバ族族自治州にあるので、この規則には関係ない。)

ちなみに、規定の中には登山料のこととは書かれていないが、登山料については中国登山協会の規定にしたがう。翻訳は仲間の横断山脈研究会の竹内康之氏にお願いした。

新たに発令された規則の趣旨である。



イラスト・宇都木慎一

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。
どしどしご投稿ください。(紙面に限り
がありますので、1点につき1000文字
程度お願いします)

百年史は重要だ
出版と図書室は誇り

關塚
貞亨

が必要とする貴重な文献となるであろう。そうなりたい、と考えて私はこの12年間『山岳』の編集を手伝つてきた。

会報715号（04年12月号）の3ページ下段の支部長会議報告によると、「山岳」2冊分のような『百年史』は必要ない、無駄を省くべきだ」という意見があつたと。いう。なんとも文化を解さない、伝統に無知な話で情けない。

野勝彦氏、重廣恒太氏、山本篤氏の鼎談があり（『山岳』第91年）、そのなかで鹿野氏が「8千トメ」峰14座の初登頂で、ヒマラヤの黄金時代が終わった」と語つて、これからは、よい登山をするか、悪い登山になるかだ、という趣旨の発言をされ、卓見だと思った。

起人たちが最初にしたことは「山岳」の発刊だった。創立の翌1906年には3巻の山岳を発行、以後99年の間、ほとんど途切れることなく「山岳」は発行され続けてきた。日本山岳会がクラブとして毎年「山岳」を発行してきたことは、日本中に無数ある山岳会で唯一無二の存在で、出版事業は山岳会の“数少ない”誇りとなすべきことである。

同好の士が集まるクラブで十分と考える。私は日本山岳会が創立100年になつてより力を入れるべき事業は「良い出版と充実した図書室」だと思う。その意味で『百年史』の発行は重要であろう。

確かに『山岳』は大部分の会員に読まれていない。分厚い『百年史』は無駄だ、というのはそのような最近の会員の動向を踏まえて述べられた意見であろう。しかし『山岳』の発行は、後世の歴史家

の大部分は組版と製版にかかり、千部と6千部を刷る費用の差はそれほど大きくない。永き将来にわたくつて『百年史』は貴重な文献として残るだろう。部数を削るのは愚かなことである。

創立当時、模範とした英國のアルパインクラブは出版を重要な事業としている、と記憶している。

日本山岳会創立100年の記念

事業の中でも『百年史』は最も重要な事業であり、たとえ大冊であろうとも、それは会の知的財産であり、製作費用を惜しまず、すべての会員に配布すべきものである。

バンフ・マウンテン フェスティバル

サツチ 益田

2004年10月30日から11月7日までの9日間、カナディアン・ロックキーのリゾート、バンフで恒例のマウンテン・フェスティバル(山岳祭)が開かれた。

カシユガルにて 荒賀 憲雄

白楊樹緑の涯の回教寺
葡萄棚舞う胡旋女のたおやかさ
蝶群れるアパク・ホージャの廟所
霧晴れて虚空に泛ぶコングール
スタンインよヘデインよ歌え月の酒

短歌

秋山暮色

小柳 清治

松小屋に煤けヤカンの滾りをり首都東京に二千メートルの山
二十六夜山下れば蒸けゐる酒まんじゅう秋山村を二たび訪ひにき
山靴の埋もる落葉の峠みち道志へ近く標にしたがふ
顔ほどの朴の落葉を踏みしだき道志の宿へ峠越えする

落葉松の黄葉降りしき尾根近し一片の雲に愈されながら

ガットなどが招待され、131冊の参加図書のなかからニュージーランド、オーストラリアのシーカヤック紀行作品『サウザーン・エクスプロジャード』クリス・ダフ著(米・2003年)が最優秀賞に選ばれた。

第29回フィルム・フェスティバルにはK2登頂50周年を記念して、アメリカからOR・チャールス・ヒューストン、ジョン・ロスケリー、ヒマラヤ・ベテランクライマー、カルロス・ビューラーなどが招待され、331本の参加映画のなかから最優秀賞に往年の名作『オドワロット(回収)』(ボーランド・1967年)が選ばれた。

カナダの山岳界で近年もつとも功績のあつた岳人に贈られるサミット・オブ・エクセレント賞は、地元バンフのホワイト・ミュージアムの学芸員で写真家のクリッジ・リチャードが受賞した。

今回のフェスティバルと同時にホワイト・ミュージアムでは、イタリアのトリノ山岳ミュージアム所蔵の日本の自然写真家・水越武氏のヒマラヤ写真展が開かれ、同氏も招待されてフェスティバルを楽しました。

観光客も少なく、静かな初冬のバンフ、世界有数のクライマー、冒險家と間近に接することのできるフェスティバルを楽しめれば、いかがだろうか。2005年も同期に開かれる。

また、2004年11月17日から

3日間、東京のカナダ大使館シアターでバンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバル2004イニ・ジャパンが開かれ、600人の招待客が昨年度の優秀映画を楽しんだ。

詳細は、www.banffjapan.comまで。



ATLAS TREK
 個人手配旅行から人気のトレッキングアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にお連絡ください。



株式会社 **アトラストレック**
 (国土交通大臣登録旅行業1167号)
 東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
 大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
 神戸/〒654-0807 名古屋区千種東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

チョー・オユー ゴールデンジュビリーに参加して

平林丈彦

N.M.A(ネパール山岳協会)のアンツエリン会長からの招待状が9月21日、A.B.Cキャンプに届いた。24日にアタックを開始し、27日の朝7時40分に念願のチョー・オユーの頂に立った。天気が良く、エヴェレストをはじめローツエ、ヌプツエ、マカルー、シシャパンマなど、みごとなパノラマを約20分間、酸素マスクをはずして楽しんだ。

10月4日にカトマンズにもどり、17日から始まる50周年記念式典に参加すべく待機した。式典に先立ち、13日には初登頂時のオーストリア隊の隊長・ヘルムート博士ご夫妻とアンツエリン氏と一緒にプライベートな夕食会をもつた。

15日にはプレス・コンファレンスに招待され、昼食会をメスナ1氏やハーベラー氏、各国メディアの方々とともに過ごした。この席でヘルムート博士が初登頂時の3国の大旗(ネパール、オーストリヤ、イング)ひと組を披露したの

が印象深かった。

17日から公式セレモニーが始まり、初日にはトークショウの壇上に突然呼び上げられて、司会者の求めに応じていろいろ話すことになった。この日はチョー・オユー記念切手の発行式があり、メスナー氏が主催した。私の登頂証明書に彼のサインをもらったのもこの日である。

18日のハイライトは市主催の歓迎式典で、市内中心部の広場で黒いネパール帽と記念品を贈られ、その後両側を陸軍兵士に護られて2頭立ての馬車に乗って市内パレードをする栄誉を賜った。約1時間のタメル市内を行進する晴れがましいひと時であった。

最終日の19日には、国際会議場で総理大臣出席の顕彰式が行われ、過去の登頂者も含め招待された30人ほどのひとりひとりが、国名とともに呼び上げられ壇上に上って、総理から表彰状と記念品を授かった。

3日間にわたり昼食会、夕食会はカトマンズや周辺の由緒ある場所で行われ、ネパールの国をあげての式典であることを実感した。

昨年のエヴェレスト登頂50周年に

引き続き、今年のチョー・オユー式典も盛大であった。私の51年にわたる登山人生のなかで、忘れる

ことのできないこのゴールデン・ジュビリー式典に参加する機会を与えてくれたネパール山岳協会に對して心から感謝しつつ、興奮冷めやらぬまま、19日の深夜、ネパール国際空港を飛び立つた。

会員章番号の由来 番号割り当ての妙

長田 義則

その昔、旧会員章は希望者のみに実費の頒布で始まった。番号の打たれた会員章は、名簿の入会順序に関係なく交付された。その第1号の会員章番号は、発起人の河田黙への交付記録がある(『山』375号・会員章覚書)。同発起人の6名は、筆者の推測では、高頭仁兵衛2番、武田久吉3番、高野鷹蔵4番、梅沢親光5番、小島久太6番、城数馬7番と考えられる(イロハ順として)。

会員章の着用写真でもっと古いものに、あの探検的大縦走の「赤石岳山頂での記念写真」があ

る。

三枝威之介(守博・33番)と中村清太郎の胸にその着用を見る。

交付した会員章の番号は、その所有者名を特定するものだったが、入会順序に照らしてみると、会員章番号に順不同の声や、着用上の脱落する欠点も指摘され、大正9年4月、武田久吉考案の新たなJ.A.Cバッジが制定された。

新会員章の番号は、入会順序に従い、アルファベット順に割り当てられた。その発起人の番号の順序をイロハ順と判断したのには、旧会員章の頒布直後の会員名簿(明治43年1月1日付)に山岳会幹事として、7人の発起人と辻本満丸の連名があり、8名の幹事の配列は、河田黙に始まるイロハ順の記載と見て取ったからである。アルファベット順での発起人の会員章番号は、城の1番、山川の7番と、いともあつさり変更した。会員は新たな番号の会員章を手にしたが、紛失した時の会員章番号は、無効として会報に広告した。古くは三枝の33番が35番となり、300番台の紛失者の届けに1400番台の再交付の記録も見る。変動する会員章番号は、昭和18

Climbing & Medicine · 41**ダイアモックスは利尿剤で代用できるか**

野口 いづみ

ダイアモックス（一般名アセタゾラミド）は弱い利尿剤であることから、利尿剤が高山病に効くと考えられるようになります。しかし、これは主にわが国で信じられている誤解といえます。高山病に効果があるのは、利尿作用によるものではありません。

ダイアモックスは腎臓からアルカリ性の重炭酸塩の排泄を促進させて、体液を酸性に傾かせます。その結果、高所で過換気状態からアルカリ性に傾いていた体液を酸性側に引き戻し、換気量をおだやかに増加させることができます。また、脳脊髄液も酸性側に傾け、脳浮腫を軽減させる効果があります。このようなことから、高山病に効果があると考えられています。

他方、利尿剤として有名なラシックス（一般名フロセミド）やフルイトラン（一般名トリクロルメチアジド）は利尿作用が強く、尿の排泄を増加させて脱水を招き、体の塩分（電解質、ナトリウムやカリウムなど）のバランスを崩します。

松田氏の腐心する創立以来の会員総数は、複雑で誰しも手におえず、未知の領域に変わりない。超えた。

（付記・会員総数の把握には、
「山岳」12年1号付録会員名簿が必要です。心あたりの方は松田雄一氏までご連絡を）

て体調の悪化をもたらす場合があります。

2004年2月に日本山岳会医療委員会で講演をされたブッダ先生（ネパール・国際山岳連盟医学委員会委員長）も、高山病の治療薬として、「軽症ではダイアモックス、中程度ではダイアモックスとデキサメサゾン、脳浮腫では多量のデキサメサゾン、肺水腫ではニフェジピン」を、それぞれ挙げ、ラシックスについては治療薬として挙げることさえありませんでした。

なお、デキサメサゾン（商品名デカドロンなど）はステロイド薬（副腎皮質ホルモン薬）で、浮腫を軽くするなどの効果があります。ニフェジピン（商品名アダラートなど）は降圧薬で、肺水腫を改善することができます。1980年にすでにピーター・ハケット氏は、高所順応がうまくいかず水分を摂取できない脱水症の患者にラシックスを投与することは病状をかえって悪化させてしまうことになると、警鐘を鳴らしています。

このようにラシックスは弊害が多い薬で、肺水腫や脳浮腫などのはっきりした障害がある場合に、医師が救急薬として使用する場合があるという程度のものです。専門外の方が、検査や輸液ができないような環境で使う性質の薬ではありません。つまり、ダイアモックスのように高山病の予防薬として使用するのは不適切であり、ダイアモックスの代わりにはならないと言えます。

年11月の会報128号の2277番の再交付をもって見なくなり、松田雄一氏の『山』247号の会員章覚書には、「戦後、紛失者の新番号の交付はやめ、番号のない会員章を再交付した」とある。変動のあつた会員章番号は固定して、会員番号への通称となつた。倫しやクラブのいつもの集まりに、藤島敏男さんの自己紹介は、「僕の会員番号は710番、凡俗の淵に落ちないよう……」とそらんじた会員番号であり、それを聞いて待つ松方三郎・元静岡支部長は、襟元の会員章をはずして番号を確かめる。山本朋三郎・元静岡支部長は、そんな風景にいく度か出会つて支部の集まりに話したもの。

それも昔のこととなり、JACは来し方行く末の100年を迎える。新入会員の番号は14000番を超えた。

松田氏の腐心する創立以来の会員総数は、複雑で誰しも手におえず、未知の領域に変わりない。

（文中敬称省略）

図書受入報告 (2004年11月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
高辻謙輔	日本百名山と深田久弥	277pp/19cm	白山書房	2004	著者寄贈
高橋正彦(編)	日本大学山岳部80年の歩み:2004年創部80周年記念号	275pp/27cm	日本大学山岳部・桜門山岳会	2004	発行者寄贈
福島功夫	新・山の本おすすめ50選	247pp/19cm	東京新聞出版局	2004	出版社寄贈
菊原敏良(編)	目で見る安江安宣	416pp/27cm	安江正子(私家版)	2004	発行者寄贈
全日本山岳写真協会(編)	山稜2004:全日本山岳写真展作品集(撮影地図付)	213pp/22cm	全日本写真協会	2004	発行者寄贈
大谷優(大谷路山)	山の鼓動(歌集)百首:山へのつぶやき	103pp/19cm	大谷優(私家版)	2004	著者寄贈
高橋信一	関東・越後の避難小屋144完全ガイド	151pp/21cm	随想舎	2004	著者寄贈
寺門寿明(編)	見嶺の百花譜:五百城文哉の植物画	143pp/29cm	水戸市立博物館	2004	高野光正氏寄贈
倉林昭次	赤城山:四季を訪ねて(山書研究 47号)	121pp/21cm	日本山書の会	2004	発行者寄贈
藤井龍彦(監修)フジツウヤンテ(編)	アンデス・アマゾン・大地の力	168pp/21cm	求龍堂	1998	大貫良夫氏寄贈
大貫良夫	黄金郷伝説:エル・ドラードの幻(講談社現代新書 P 650)	264pp/18cm	講談社	1992	著者寄贈
大貫良夫	アンデスの黄金:クントゥル・ワシの神殿発掘記(中公新書 1535)	276pp/18cm	中央公論新社	2000	著者寄贈
大貫良夫	アンデス「夢の風景」	194pp/21cm	中央公論新社	2000	著者寄贈
ウインバー(著)大貫良夫(訳)	アンデス登攀記 上巻(岩波文庫 赤-239-3)	316pp/15cm	岩波書店	2004	訳者寄贈
後藤潤	異境に楽しむ山旅	381pp/19cm	文芸社	2000	著者寄贈
安田成男・京極絆一(共編)	スマリ・チッシュ登頂:1979年カラコルム遠征隊報告書	162pp/26cm	北海道山岳連盟	1980	発行者寄贈
Bill Aitken, Geeta Kapadia	Touching upon the Himalaya : Excursions and Enquiries	168pp/22cm	Himalayan Club	2004	発行者寄贈
John H. III & Kelly Cordes (eds)	The American Alpine Journal (Vol.46, Iss.78, 2004)	496pp/23cm	American Alpine Club	2004	発行者寄贈
Harish Kapadia (ed.)	The Himalayan Journal (Vol.60, 2004)	236pp/22cm	Himalayan Club	2004	発行者寄贈
Walter Theil (ed.)	BERG 2005 (Jahrbuch Band 129)	320pp/27cm	DAV, OAV, AVST	2004	発行者寄贈

蘭の版画集『蘭花譜』の放映

資料・映像委員会

2月18日(金)20時から、NHK-

BSハイビジョンで“驚異の版画集『蘭花譜』ものがたり”が放映されます。『蘭花譜』とは、大実業家でもあった故加賀正太郎・名誉会員の発刊した版画集で、昭和初期より世界中から蘭の花を集めて栽培、そのなかから104種の花を選び、昭和21年最高の版画職人を集めて200回以上の工程を重ねた多色刷

りのものです。

番組はこのたび発見された、当時の版本から復刻を試みるというものがたりだそうです。

資料・映像委員会では、故加賀・名誉会員より寄贈された貴重なる桐箱入り104枚の版画初刷りの『蘭花譜』を大切に所蔵いたしております。興味をおもちの方はどうぞ番組をご覧ください。



INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆第32回「山岳史懇談会」

図書委員会

主題 「創立期のアルムクラブ」

講師 芳野満彦氏、武内敏男氏

日時 3月1日(火)18時30分～20時

場所 日本山岳会集会室

◆100周年記念自然保護の集い
自然保護委員会

100周年を記念して自然保護委員会では次の催しを計画しています。

奮ってご参加ください。募集要領など詳細は次号でお知らせします。

日程 4月9日(土)、10日(日)

9日 場所・高尾の森わくわくビレッジ(前夜泊も可)

午前の部・自然保護委員会

全国集会

午後の部・100周年記念

シンポジウム、テーマ「森と人間の共生」

10日

場所・裏高尾小下沢国有林

第5回「高尾の森植樹祭」

参加者全員で広葉樹2千本の植樹します。

◆山岳映像から見た登山史の側面
緑爽会

映像は時代の証人、甦った映像から山岳史の側面を考える。

日時 2月25日(金)18時30分

会場 日本山岳会集会室

上映作品 第2次RCC創設者・奥山章制作・1969作品

解説 「ヒマラヤの休日」デオ・ティバを滑る」他

羽田栄治資料・映像委員会

委員長、「奥山作品」と「山岳映像から見た登山史の側面」について。

問合 松本(面03-3326-2

892)、宮澤(面090-8172-8472)

◆平成17年韓国山・内延山、南山、仏国山
三水会

東海側のみごとな瀑布のある渓谷と慶州の南山・奇岩の山

期日 5月22日(日)～26日(木)

日程 22日 成田→釜山金海空港

23日 慶州

ヨンハゴル→内延山→宝鏡

創立100周年記念
多機能付腕時計(会員番号入り)頒布のお知らせ

日本山岳会創立100周年を記念して、下記の要領で多機能付腕時計(会員番号入り)を頒布します。

奮ってご購入ください、山行で愛用されることを願っています。

- 品名 「多機能付腕時計」(裏面に会員番号・血液型入り)
カシオ計算機(株)特製 Protrek PRW-1000J
- 機能 ○方位測定 ○気圧計測 ○高度計測 ○温度計測
○電波受信(時刻合わせ不要) ○ソーラー充電システム
○時刻表示(ストップウォッチ・タイマー・時刻アラーム)
- 頒布価格 28,000円(送料込み)
- 特別刻字 会員番号・血液型・100周年日本山岳会
- 申込み 会員番号と血液型を明記のうえ、FAXまたはハガキで事務局まで(電話は不可)
- 締め切り 5月末日
- 納品 2005年10月



腕時計裏面



創立100周年記念「写真で見る100年史」写真提供のお願い

資料・映像委員会

資料・映像委員会では、100周年の記念事業の一環として仮題「写真で見る100年史」(小冊子)の制作を企画しています。

日本山岳会の事業や記録、ならびに多大な功績を果たしたグループや会員個人の活躍、とくに戦前に足跡をしたした山行の記録写真などがありましたら、ぜひご提供ください。

主だった海外登山の記録写真は、委員会の方からお預りする場合がありますので、よろしくお願ひします。なお、提供写真には、写真の撮影年月

や説明文を付記してください。

選定は資料・映像委員会により慎重に選ばせていただきますのでご了承ください。選定後は、責任をもってご返却します。

- 締切り 5月20日(金)
- 送り先 日本山岳会資料・映像委員会「山岳会写真百年史」宛。
- 問合せ 資料・映像委員会・羽田栄治
〒167-35 東京都杉並区今川2-2-10
Tel・Fax 03-3399-3975

申込	会費	会場	時間	会期	◆第14回「山好きの山の絵展」	会場	時間	会期	申込	会費
石田稔郎宛 (〒202-10013)	9万円	西東京市中町5-1	16:45	2月20日(日)～26日(土) 10：19時(初日は12時から・最終日は17時まで)	◆第14回「山好きの山の絵展」	東京交通会館2Fギャラリー (千代田区有楽町2-10-1 下鉄有楽町駅A8番出口)	18:00	3月水会	01会	寺一慶州
＊入場無料										24日 慶州観光と南山登山、 午後東大邱→ソウル
5日	2日	1日								25日 仏国山登山
3日	図書委員会 ケッチクラブ フォトビデオクラブ 資料委員会 アルパインスキークラブ	総務委員会 緑爽会 つくも会	総務委員会 九五会 アルパインスキー会	2月20日(日)～26日(土) 10：19時(初日は12時から・最終日は17時まで)	◆第14回「山好きの山の絵展」	東京交通会館2Fギャラリー (千代田区有楽町2-10-1 下鉄有楽町駅A8番出口)	18:00	3月水会	01会	常務理事会 アルパインスキーチクラブ 理事会 山岳地理クラブ 山想俱楽部 休山会
8日	12月	■訂正	30日	29日	26日	25日	24日	22日	16日	10日
23～25日	（704号3ページ4段） 行を「百年史」の全員配布について再検討すべきである」と訂正します。									9日

日本山岳会会報 山 716号

2005年(平成17年)1月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンピュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会长 平山善吉
編集人 今村千秋
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印 刷 株式会社 双陽社

◆編集後記◆

●新年明けましておめでとうございます。いよいよ山岳会創立100周年の年を迎えました。会員各位のご協力よろしくお願いします。
 ●私は今年の正月も鹿島槍の麓で迎え、暮れの雪不足も31日の大雪で例年通りの元日の朝となり、後立山の稜線が新雪できれいでした。
 ●事業委員会の「マナスル峰2005登山隊」は8名の隊員が決まり、4月には出発します。会員に参加を呼びかけ、全国から幅広く応募がありました。そのなかから決定した隊員は平均年齢が61・8歳とかなりの高齢者登山隊ですが、全員経験豊富で年末年始も穂高で合宿と意気軒昂です。日本人が初登頂した唯一の8千メートル峰へ、登頂50周年の年にぜひとも登つて欲しいものです。
 (今村千秋)